

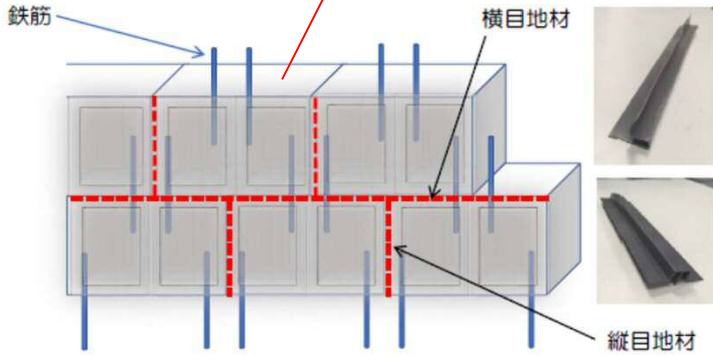
技術概要書（様式）

※別紙2

| | | | |
|-----------|---|------|--------------|
| 技術分類 | 安全・防災 維持管理 環境 <u>コスト</u> ICT 品質 (該当分類に○を付記) | | |
| 技術名称 | EDO-EPS工法 J-ウォール [®] ブロック工法 | 担当部署 | 福岡営業所 |
| NETIS登録番号 | | 担当者 | 吉田 茂喜 |
| 社名等 | 株式会社 J S P | 電話番号 | 092-411-6854 |
| 技術の概要 | <p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>軽量盛土工法の1つであるEPS工法は、軽量性、耐圧縮性、耐水性、自立性に優れており、その特徴を生かして軟弱地盤上の盛土材や橋台、擁壁の裏込め材として土木工事に広く使われています。EPSで道路の拡幅盛土等を行った際、EPSブロックの紫外線劣化防止等の目的で、保護壁は不可欠です。この壁面を効率的に構築する「ウォールブロック工法」について、品質面や施工性などを向上させた「J-ウォールブロック」を紹介します。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>J-ウォールブロック工法は、従来の壁体（H鋼支柱+セメント板+基礎）付きEPS軽量盛土工の施工性、経済性をそれぞれ向上させた工法で、EPSブロックに二次製品である繊維補強軽量セメント版軽量モルタル版を治具を用いて工場で固定一体化し、壁体と盛土を同時に施工出来るようにした壁体一体型軽量盛土工法です。</p> <p>その結果、EPS軽量盛土工法での発泡スチロール保護用の壁体（壁面材）を安く、早く、簡単に構築することができ、従来のH鋼支柱保護壁タイプが持っていた以下の問題点を解決できます。</p> <p>I.H鋼支柱にセメント性の重たい壁材を取付けた物であり、運搬や搬入、設置に伴う施工性の問題 II.部品数の多さやそれに伴う設置手間等のコストの問題 III.支柱設置に伴う機械の騒音、振動</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>EPSブロックと壁面が一体構造であるため、H鋼や壁面の取り付け作業が不要となります。このため、EPSブロックを積層することにより、道路などのEPS盛土体も壁体も、同時に構築することが出来ます。その結果、工期の短縮、経済性の向上、施工時の機械の騒音や振動の抑制、用地制限や大型重機搬入が困難な山岳地帯や官民境界の制限が厳しい場所でも施工が可能になります。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高さ20m以下の道路（車道、歩道）の盛土 ・特に重機が入れない山間部や境界などの制限が多い都市部 ・EPS工法同様に形状により耐震設計が必要となる（H/B>0.8、H>6.0mの場合） ・ただし、高さ20mを越える盛土や水位が盛土をオーバーフローするような場所や常時水につかるような場所では要検討 <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関 1 件（九州 0件、九州以外 1件） 自治体 21件（九州 2件、九州以外 19件） 民間 1 件（九州 0件、九州以外 1件）</p> | | |

6. 写真・図・表

壁面一体型EPS[®]09



【J-ウォールブロック工法の積層イメージと施工写真】

【従来工法】

【新工法】

発泡スチロール[®]レド

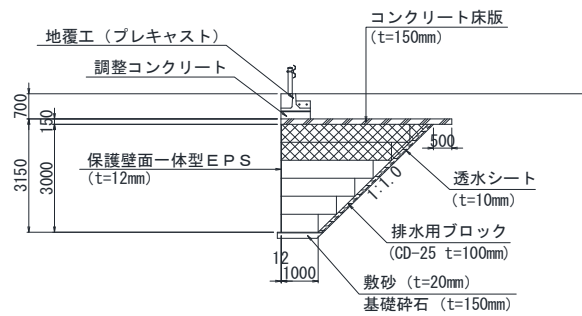
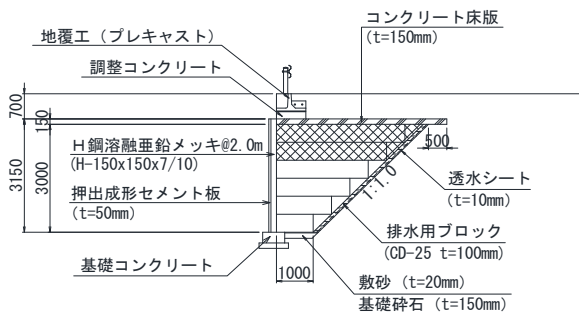
EPSブロック Dx-24H

EPSブロック D-20

H鋼支柱式EPS

→
経済性、施工性
ともにUP

J-ウォールブロック



【J-ウォールブロック施工事例】